診療局の20年の歩み

佐　野　啓　介

キーワード：医局派遣；新医師臨床研修制度；非常勤医師診療体制
（雲南市立病院医学雑誌　2019; 16(1): 21-22）

診療局の20年前を振り返ると、岡山大学、鳥取大学、島根医科大学からの医師派遣を受け、各科ともに充実した診療体制を維持していた。しかしながら、平成16年施行された新医師臨床研修制度の影響により、この年以降、診療局は今までになかった急激な医師数の減少を経験することとなった。

平成15年、診療局の医師数は34名であった。内科には消化器、腎臓、循環器、内分泌を専門とする10名を超える医師が在籍していた。また、内科以外にも20-30代の若い医師が多く、医局は賑わっていた。平成16年の新医師臨床研修制度の導入後、大学各医局の事情により、診療局の医師の多くが大学病院、または他の関連病院への異動となった。内科医師は常勤医師１名を除いて全員が居なくなり、他病院の院長経験者２名を新たに加え、平均年齢50歳を超えた３名での再スタートとなった。その他の科では、時期を前後して、麻酔科、皮膚科、泌尿器科、眼科、放射線科の常勤医師が居なくなり、非常勤医師による診療体制となった。この頃は毎月のように送別会が執り行われ、数年の間に医師数は17名となった。そして医局の机の半分は空席となった（**図１**）。そのような中にあっても、整形外科、外科は医師数を確保し、診療体制の維持を図られた（**図２**）。また、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科は常勤医師による診療体制を維持できた。その後、各方面への働きかけにより、医師数はゆっくりだが徐々に増加傾向に転じた。現在、皮膚科、泌尿器科は常勤医師体制となったが、麻酔科、眼科、放射線科は非常勤医師による診療体制のままである。

令和元年を迎え、新病棟完成から１年余り経過したころ、診療局の医師数はようやく25名まで回復した（**図３**）。内科を中心に若手医師も増え、医局も以前の活気を取り戻しつつある。内科診療を支えてこられた服部先生、整形外科、外科の診療体制を維持しつつ、各科の医師確保に努められた、松井前事業管理者、大谷事業管理者のご尽力に感謝したい。

図１　移転前旧医局

図２　移転前医局隣の研修医・学生室

前診療局長、統轄副院長、雲南市立病院耳鼻咽喉科
著者連絡先：佐野啓介　雲南市立病院耳鼻咽喉科〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕
E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

図３　移転後管理棟（旧東棟）内の新医局：ラウンジ（左上）、
秘書スペース（右上）、医師のデスクスペース（下左右）

Twenty years of progress on the medical affairs council in Unnan City Hospital.

Keisuke Sano

Medical affairs council, Vice-president, Department of otorhinolaryngology, Unnan City Hospital
Correspondence: Keisuke Sano, MD, PhD, Department of otorhinolaryngology, Unnan City Hospital〔96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN〕
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp